

授業科目名	保育者論	担当教員名	西林 幸三郎
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	教育の基礎理解に関する科目-教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)/保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	1年 後期(3-4期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 幼稚園園長としての実務経験に加え、小学校校長としての学校運営に関わる実務経験を活かして授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	保育を取り巻く状況は日々変容を見せ、新たな保育ニーズが求められている。特に、人的環境としての保育者に対する期待は大きい。この講義では、こうした社会的要請に対応するために保育者として必要とされる知識や方法を学ぶと同時に、子どもの人権保障や幼保一体化への対応など、新しい保育動向を視野に入れた内容で構成されている。		
到達目標	(1)我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 ①公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ②進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 (2)教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ①教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ②今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 (3)教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ①幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ②教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ③教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 (4)チーム学校への対応 ①校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。		
テキスト	学生の経済的負担を考えて、テキストの購入は控えさせたい。そのために、毎回の授業において、授業プリントを作成し、配布する。		
参考書・参考資料等	○アクティバート保育学02「保育者論」大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編著(ミネルヴァ書房) ○新しい保育講座2「保育者論」汐見稔幸・大豆生田啓友編著(ミネルヴァ書房) ○平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本(株式会社チャイルド本社) ○新聞記事等適宜紹介		
成績評価の方法	○学習への意欲と興味関心…授業態度・レポート等の提出：50% ○内容の理解…設問への自由記述、それへのコメントの報復による指導：50%		
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等			
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	* 保育者とは何か ・保育という仕事の本質、特質を考える。 ・「自らを育てようとする」子どもを支える。 ・「互いに育ちあう」ということ ・大切にしたい「原理・原則」を考える。	(1)-①,(2)-①	
第2回	* 保育者になるために ・幼稚園教諭免許 ・ 保育士資格 ・ その他の資格 ・ 保育者に求められる心構え;含む研修	(1)-②,(2)-②,(3)-③	
第3回	* 幼稚園教諭の仕事とその一日 ・ 幼稚園教諭のイメージ ・ 幼稚園教諭の仕事事例から考える。 ・ 幼稚園教諭の一日	(3)-①	
第4回	* 保育士の仕事とその一日 ・ 保育する一日 ・ 保育する一年		
第5回	* 子どもの内面や発達を理解する保育者 ・ 子どもの発達をどう理解するか ・ 保育のなかで子どもの内面と発達を捉える	(3)-②	
第6回	* 遊びを援助する保育者 ・ 子どもにとっての「遊び」とは ・ 遊びを援助するとは ・ 子どもの興味や関心を捉え、次の姿を予想する ・ 遊びの中で学んでいることを捉える ・ 保育者の願を環境に位置づける ・ 実践し、自分の保育を振り返る ・ 研修によって専門性を向上させる		
第7回	* 個と集団を生かす保育者 ・ 個が育ち、集団が育つということ ・ 保育・幼児教育の前提としての「個」と「集団」の捉え方 ・ 「個を生かし集団を生かす保育」を生み出す“省察”する力 ・ 子どもと保育者の主体性が生きる園生活へ		
第8回	* 家庭や地域と連携・支援する保育者 ・ 家庭や地域との連携・支援 ・ 何を連携・支援するのか ・ 家庭や地域と連携・支援する方法 ・ 学び、育ち合う家庭や地域との連携・支援 ・ 家庭や地域との連携・支援を行ううえでの原則		
第9回	* 多様な子どもの理解と支援する保育者 ・ 子どもはそもそも多様である。 ・ 多様性の背景要因 ・ 多様な子どもを支援する制度と他機関連携 ・ 多様性をもつ子どもの理解と支援の実践 ・ 多様性から学ぶ		
第10回	* 教材などを通して学びを深める保育者 ・ 教材研究がなぜ大切か ・ 環境を構成する保育者の役割 ・ 絵本の教材研究	(3)-②	
第11回	* 豊かな分科や自然との出会いをつなぐ仕事 ・ 絵本を通して豊かな生活を生み出す保育者 ・ 子どもと豊かに生活するための保育者の個性		
第12回	* 成長する保育者と同僚性 ・ 同僚性の意味するところ ・ 同僚性の重要性 ・ 豊かな同僚性を築くために		

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第13回	<ul style="list-style-type: none"> * 保育者の専門性 ・ 専門家として育つ ・ 協働で学び合う専門家集団 ・ 保護者や地域の人達と共に育ち合う 	(4)-①
第14回	<ul style="list-style-type: none"> * 保育者の専門性 ・ 法律改正に見る保育者の専門性 ・ 2003年保育士の国家資格化 2007年学校教育法の改正 2015年子ども・子育て支援新制度で、認定こども園で働く職員は「保育教諭」 	(3)-③
第15回	<ul style="list-style-type: none"> * まとめにかえて ・ 「クラスの倫理的な雰囲気」をつくることと専門性 ・ 赤ちゃんだって倫理的雰囲気は感じ取る 	